

チューター・ガイドブック

— 制度の概要と、チューターの心得（第 16 版） —

2013 年 4 月

長 崎 大 学 留 学 生 セ ン タ ー

はじめに

<留学生のチューターになった皆さんへ>

チューターの皆さんの中には、チューターになって初めて留学生と接するという人もいるかと思います。留学生とどう接すればいいのか、不安に思っている人もいるでしょう。研究室でいつも留学生と接しているという人もいるかもしれませんが、チューターとして、具体的に何をすればいいのか、チューターとして、どんなことが期待されているのか、チューター制度やチューターの役割について明確に知っている人は少ないのではないのでしょうか。

そこで、チューター制度の概要とチューターの具体的役割、チューターとして留学生を支援していくうえでの留意点をまとめてみました。

現在、長崎大学には 424 名（38 カ国）の留学生が在籍しています（2012 年 10 月 1 日現在）。日本の大学で学位（学士号・修士号・博士号）を取得するために来ている留学生、1 年間の交換留学で 3 年次の単位を長崎大学で取得しようとしている留学生など言葉も文化も違う国でこの目的を達成するためには、強い意志とたゆみない努力が必要です。それを側面から支援するためにチューター制度があります。

このガイドブックが、皆さんがチューターとして活動をしていくうえで、少しでも参考になればと思います。

目 次

I. チューター制度の目的と意義	1
II. 制度の概要	2
対象者・対象期間・実施期間/時間・謝金・チューターの資格	
III. 提出書類とその作成上の留意点	
1. 提出書類の種類	3
2. 指導計画書作成上の留意点	4
IV. 長崎大学に在籍する留学生について	
1. 留学生の数	5
2. 留学の種類	9
V. チューターの具体的な役割	
1. 渡日直後の援助	11
2. 勉学・研究上の援助	12
3. 生活上の援助	14
4. 対人関係上の援助	16
VI. チューターとして活動するうえでの留意点	17
VII. 留学生サポートのネットワーク	19
VIII. チューターとしての活動を通して得るもの	21
1. チューターと留学生（4組）の感想文	22
2. チューターを経験した人たちの活動内容と感想	33

I. チューター制度の目的と意義

チューター制度は、長崎大学に在籍する留学生に対して、大学が選定したチューターが、留学生の指導教員の指導の下に個別の課外指導を行い、留学生の学習・研究効果の向上を図ることを目的としています。

留学生は、言葉の問題や日本の大学制度に慣れていないことなど、勉学・研究上多くの困難をかかえています。また、生活上のさまざまな問題が勉学に影響を与えることもあります。



チューターの役割は、留学生と日常的に接触し、留学生のかかえる問題点をできるだけ早く知り、留学生の指導教員や留学生センターの教員等と相談しつつ、留学生を支援することです。



大きな問題が起きてからその解決を図るというのではなく、そうした問題が起きないよう留学生と**定期的**に会い、**日常的に支援**するという意味で、チューター制度は大きな意義があります。

Ⅱ. 制 度 の 概 要

1. 対象者

長崎大学に在籍する留学生が対象となります。

留学生一人一人にチューターがつきます。

2. 対象期間

学部の留学生については、原則として、大学進学後最初の1年間です。

大学院（研究生を含む）については、原則として、渡日後最初の1年間です。

協定校からの交換留学生についてはその留学期間（半年もしくは1年）に合わせてチューターが配置されます。

3. 実施期間

毎年度4月から翌年3月までの12か月間（前期は、原則として4月から9月まで、後期は、10月から翌年3月で）実施します。

4. 実施時間

実施時間は、1回当たり2時間程度とし、年間100時間、半期50時間を標準とします。

5. 謝金

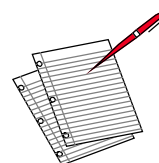
1時間1,000円（2011年度実績）程度です。所得税の源泉徴収の対象となり、年間の所得額によっては所得税が徴収されます。

6. チューターの資格・選考

長崎大学の学生（学部留学生のチューターは2年生以上）であって、その留学生の専攻する分野に関連のある者のうちから、指導教員等の推薦に基づき、大学が選考します。

また、登録制のチューターについては随時募集しています。

Ⅲ. 提出書類とその作成上の留意点



1. 提出書類の種類

(1) 指導計画書

チューターになった人は、留学生の指導教員（学部生で、指導教員が決まっている場合は、留学生担当教員）および本人と打ち合わせて、「指導計画書」（所定用紙）を作成し、写しを指導教員（または留学生担当教員）と国際交流課に提出してください。

計画書作成に当たっては、「2. 指導計画書作成上の留意点」を参考にして下さい。

(2) チューター実績簿

チューター実績簿（所定用紙）にその月の指導内容を記入し、指導教員（または留学生担当教員）の確認を受けて、毎月月末までに国際交流課に提出してください。

また、指導内容はその都度具体的に記入するように心がけてください。謝金は、提出された「チューター実績簿」に基づき、原則として翌月末にチューター指定の銀行口座に振り込まれます。

(3) チューター活動報告書

同様に、半期ごとに「チューター活動報告書」（所定用紙）を作成し、国際交流課に提出してください。

チューターとしての活動全体を振り返り、所定の用紙に必要事項を記入してください。自由記述の部分に関しては、できるだけ詳しく具体的に書くようにしてください。（「チューター活動報告書」に関しては、指導教員の確認を受ける必要はありません。）

＊ 「チューター実績簿」と「チューター活動報告書」の内容は、今後のチューター制度の改善のための資料となります。

2. 「指導計画書」作成上の留意点

指導計画書を作成する際に行う留学生との話し合いは、お互いの**信頼関係を築く第一歩**となります。時間をとって丁寧に行ってください。その際に、以下のような点に留意してください。



- (1) チューターになった人は、できるだけ早く留学生と連絡を取り、自分がチューターであることをきちんと伝えてください。

- (2) 留学生がどんな援助を必要としているのか、具体的に聞くようにしてください。

留学生から具体的な要求が出てこない場合は、「V. チューターの具体的な役割」の項を参照しながら、チューターの側から、具体的に質問の形で提示して見てください。留学生自身、チューター制度についてよく理解できていなかったり、遠慮してはっきり言えないこともあります。常に**留学生の立場**になって考えるようにしてください。

- (3) 指導計画書に必要事項を記入したら、留学生に指導計画書を見せながら、チュータリングの内容とスケジュールについて再度確認して下さい。



- (4) 以上のようなプロセスを踏んだ後、指導計画書を提出して下さい。また、指導計画書はコピーして自分自身でも保管し、「チューター実績簿」や「チューター活動報告書」作成に当たっての参考資料としてください。

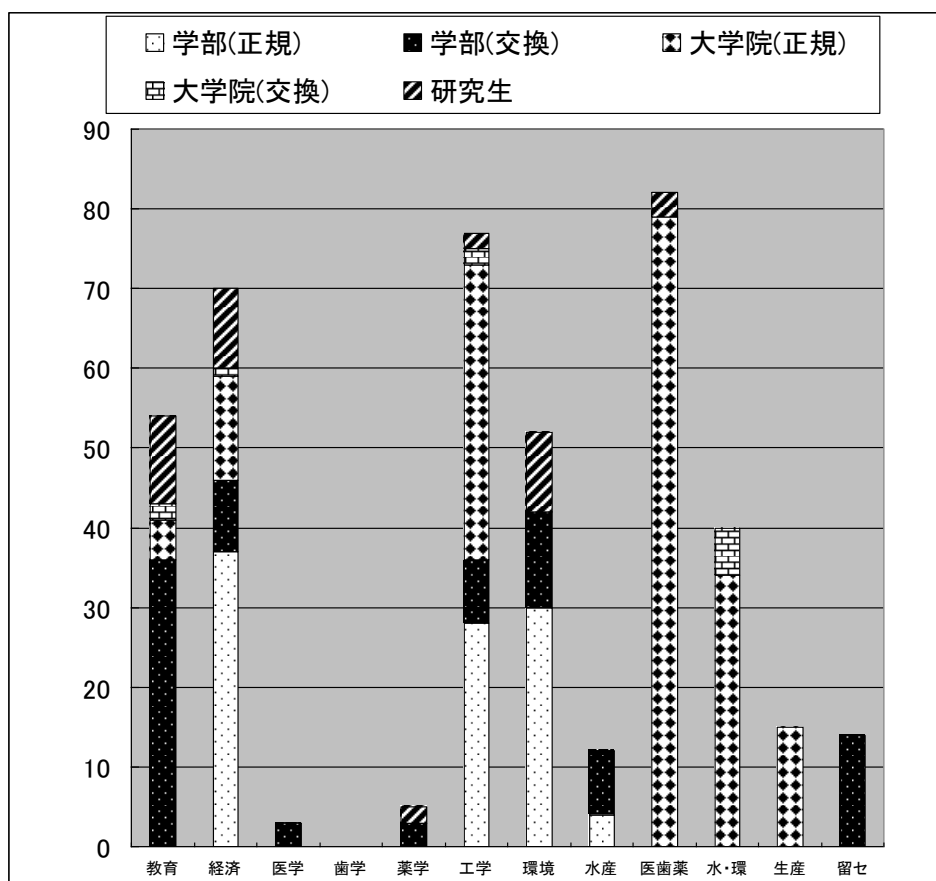
- (5) 上記のように、きちんと話し合っ計画書を作成しても、後で変更が生じることはあると思います。**柔軟性**を持って対応し、留学生の必要に応じた支援が行えるように心がけてください。

IV. 長崎大学に在籍する留学生について

現在、長崎大学には424名（38カ国）の留学生が在籍しています。

（2012年10月1日現在）

1. 留学生の数（所属別）



2. 学部・大学院に在籍する留学生の数（国籍別）

（1） 学部 に在籍する留学生（11 カ国・217 名）

ここ数年、長崎大学の協定校からの交換留学生が増加しています。

学部										
国名	教育	経済	医学	歯学	薬学	工学	環境	水産	留セ	合計
オランダ			1						9	10
ケニア							1			1
タイ	2	2				1				5
ドイツ			2							2
フィリピン	1									1
フランス	1									1
ベトナム		1				1				2
マレーシア		2				2				4
大韓民国	20	11				8	4	3		46
中国	10	38			5	25	45	8	5	136
台湾	3	2				1	2	1		9
総計	37	56	3	0	5	38	52	12	14	217

(2) 大学院に在籍する留学生 (35 カ国・207 名)

大学院								
国名	教育	経済	医歯薬	工学	水・環	生産	留セ	合計
アフガニスタン			2					2
イタリア			1					1
インドネシア			4	2	3			9
ウガンダ			1					1
エジプト			8					8
エル・サルバドル					1			1
ガーナ			1					1
カザフスタン			2					2
ギニア			1					1
ケニア	1		8					9
コソボ			2					2
コンゴ民主共和国			1					1
シンガポール			1					1
スーダン			2					2
タイ			2		1			3
トルコ			1		1			2
ナイジェリア			4					4
ネパール			2					2
パラグアイ			1					1
バングラデシュ			6	1	1	1		9
フィリピン	1		1					2
ベトナム			10		1			11
ベナン			1					1
ベラルーシ			1					1
ペルー				1				1
ホンジュラス			1					1

国名	教育	経済	医歯薬	工学	水・環	生産	留セ	合計
マリ			3					3
マレーシア	1			1				2
ミャンマー	1		1	1				3
モンゴル							1	1
リビア			1					1
ロシア			1					1
大韓民国			1	7		2		10
中国	12	14	10	26	30	12		104
台湾			1		2			3
計	16	14	82	39	40	15	1	207

2. 留学の種類

留学は大きく、学位取得（学士号・修士号・博士号）を目的としたものと、自国の大学に籍を置き、一定期間（原則として1年以内）留学する短期留学の二つの種類に分けられます。

（1）日本の大学の学位取得を目的とする留学

・学部留学生

日本の大学で学士号を取得するために来日している留学生です。

自国で日本語を学習し、更に日本で大学の留学生別科の日本語コースや日本語学校で日本語を集中的に勉強した後、「日本留学試験」を受験するのが一般的です。かなり高い日本語能力（英検1級とほぼ同程度）が要求されます。

留学期間：4年

入学時期：4月

・研究留学生（研究生・大学院生）

日本の大学で修士号・博士号を取得するために来日している留学生です。日本の大学の学部を卒業して、そのまま日本の大学院に進学する場合を除き、大学を卒業してから仕事や研究に従事していた人も多く、休職の形で留学して来る人もいます。

専門の研究に関しては、英語で行われる場合が多いため、来日してから日本語の学習を始める人が多く、まず、留学生センターの日本語コースに在籍し、日常生活に必要な日本語を勉強するのが一般的です。

年齢は20代後半が中心で、結婚している人も珍しくありません。その場合、日本留学後、家族を呼び寄せるケースが多く見られます。

留学期間：2年半から7年

入学時期：4月もしくは10月

(2) 学位取得を目的としない留学：短期留学（学部3・4年生、大学院生）

留学生は母国の大学に在籍しつつ、日本の大学で、半期もしくは通年（1学年以内）学習・研究を行います。原則として長崎大学で取得した単位が母国の自分の所属する大学で認定されることになっています。

この短期留学には、大学間協定に基づき留学先の大学での授業料が免除される交換留学（人数枠有）と、交換留学枠外（授業料徴収）での留学があります。長崎大学の場合、短期留学生のほとんどが交換留学です。

長崎大学には現在以下の2つの短期交換留学プログラムがありますが、ここ数年、この二つのプログラム以外に、自分の専門が勉強できる学部・研究科に所属して、日本語やその学部の専門の科目を履修する交換留学生が増えていきます。

***長崎大学短期留学プログラム（NISF）（学部3・4年生）**

専門科目や日本語・日本事情等の科目を履修します。短期交換留学プログラムの講義は主に英語で行われます。したがって、一定の英語力があれば日本語能力は要求されません。

留学期間：1年

入学時期：10月

***長崎大学留学生センター交換留学生プログラム（学部3年生）**

自国の在籍大学で日本語・日本文化を専攻している学生を対象にしています。日本語と日本文化の科目を履修します。講義はすべて日本語で行われます。

留学期間：1年

入学時期：10月

V. チューターの具体的な役割

留学生によって状況は異なりますが、一般的には、次のようなことがチューターの仕事になります。

1. 渡日直後の援助

担当する留学生が新規渡日の留学生の場合、特に以下のような支援がチューターの最初の役割になります。

(1) 留学生の出迎え

海外から日本に到着した留学生を長崎駅まで迎えに行きます。留学生を出迎えた後、そのままタクシーで大学の寮（西町もしくは坂本）、民間アパート等へ移動してもらうことになっています。

留学生にとって、慣れない外国に到着した時、これから留学生活を送る大学の学生が迎えに来てくれるのは安心ですし、本当にうれしいものです。にこやかに出迎えた後、自己紹介をし、その日の日程等を説明しながら、寮に向かってください。

入寮後、留学生は国際交流課での手続きが必要ですので、文教キャンパスにある国際交流課へ案内してください。

(2) 市役所での手続き

留学生は渡日後すぐに市役所で以下の手続きをしなければなりません。国際交流課で関連書類を一式受取って、留学生と一緒に市役所に行き、これらの手続きを手伝ってください。

- 住民異動届の提出
- 国民健康保険加入手続き
- 国民年金加入手続きおよび免除申請

2. 勉学・研究上の援助

(1) 日本語力の向上のための援助

留学生の多くは日本語の問題で悩んでいます。留学生センターの日本語コースなどで授業を受けたことのある学生、また、現在受けている学生もありますが、おそらく十分ではないでしょう。日本語について、疑問やわからないことがたくさんあるはずです。質問に答える、語句や言い回しを教える、漢字の読み方や書き方を教える、適当な辞書や参考書を探すなどして、留学生の日本語力の向上のために留学生と一緒に努力してほしいと思います。

分からないことがあったら、留学生センターの教員に相談してください。また、長崎大学に在籍する留学生は誰でも留学生センターで開講している日本語コースを受講することができます。初級レベルから上級レベルまでのコースを開講しています。



(2) 専門分野についての援助

チューターは、その留学生の専攻する分野と同じか、もしくは関連のある分野の者のうちから選ばれることになっています。日常生活を送るうえでは不自由しなくても、日本語での専門の講義やゼミでの発表・討論、レポートの作成等には困難を抱えている留学生が少なくありません。チューターはこれらを考慮し、担当留学生の専門の学習・研究がスムーズに進むように援助してください。何か問題がある場合は、指導教員や担当の教員と相談して、解決のための努力をしてください。

大学院の受験を予定している場合は、その手続きや入試の内容等について情報を集めて留学生に知らせ、準備の手助けをしてほしいと思います。



(3) 事務的な事柄についての援助



大学で勉学を続けるためには、種々の事務的な事柄を処理していかなければなりません。例えば、奨学金の申請、授業料減免の申請、入寮の申し込み、医療費補助の申請、その他様々な申し込み、大学院の入試の願書提出等々です。掲示を見過ごしたり、申込書が不備だったりした場合、大変な不利益を被ることになります。チューターは、留学生がこうした手続きを一つ一つきちんとこなしていけるようできるだけ目配りをし、書類の作成を手伝うなど、様々な援助をする必要があります。

担当の留学生が私費留学生の場合、奨学金申請や授業料減免の申請は留学生生活を続けていくうえで非常に重要なことなので、期日に間に合うように、はやめはやめに対応してください。



3. 生活上の援助

(1) 日常生活のための基本的な情報の提供*

長崎に来たばかりの留学生には、次のような情報が必要です。

- 大学までの交通手段
- 住民異動届を提出する場所（市役所）、手続きに必要なもの
- 銀行・郵便局・入国管理局等の場所
- 口座の開設・携帯電話の契約
- 寮* あるいはアパートでの生活の仕方
 - ・台所やトイレの使い方、ゴミの出し方
 - ・電気・ガス・水道・電話等の契約・支払い方法、等々
- 日常的な買い物をする店

これらについては留学生センターや国際交流課でも対応しますが、「1. 渡日直後の援助」にも書いたように、チューターの援助が必要になります。

* 「日常生活のための基本的な情報」に関しては、『留学生のための長崎生活ガイド（第12版）』（2013.4.1. 長崎大学留学生センター発行）という冊子があります。参考にしてください。

* 留学生の寮としては、「西町国際交流会館」と「坂本国際交流会館」の2つがあります。

(2) アパートを探す場合の援助

日本でアパートを探す場合、部屋代・敷金等が高い、保証人を要求される、外国人は敬遠される場合がある等、いろいろ難しい問題があり、留学生が援助を必要とする代表的なものの一つです。

国際交流会館に入居できる留学生もいますが、多くの留学生が民間アパートに入居します。留学生から相談を受けたら、まず大学生協に相談してください。生協ホームページで物件を探すこともできます。チューターは、一緒に民間アパートを見に行くなどして、留学生が少しでも条件のいい部屋が借りられるよ

う支援してください。

民間アパートに入居するときは、保証人が必要になりますが、留学生住宅総合補償」に加入すると長崎県国際交流協会が保証人（機関保証）になってくれます。

また、「留学生住宅総合補償」の加入費と仲介手数料および家賃を一部ですが留学生後援会で補助しています。保証人と家賃補助等の手続きは、国際交流課で行なっていますのでアパートの契約書と領収書を持って留学生自身が国際交流課に来ることになっています。

(3) 経済的な問題について

日本人学生が海外に留学する場合、交流協定校との短期交換留学制度（授業料免除）を利用する以外は、**私費留学**のケースが大多数を占めるでしょう。同じように、来日する留学生、特に学部留学生の大多数は私費留学生です。

日本は物価が高いことで有名です（特に生活必需品）。自国では十分な生活レベルを維持できる金額を所持していても、日本での生活は容易ではありません。また、為替の変動によっても影響を受けます。

来日後、民間の奨学金等に応募しますが、日本で生活するのに十分な額ではなく、奨学金の数も限られているので、私費留学生の多くがアルバイトをしながら勉強しています。



（アルバイトをする場合は国際交流課に「**資格外活動許可**」の申請をする必要があります。また、時間も制限されています。）

担当の留学生が 経済的な困難に陥った場合、チューターは指導教員や担当教員、留学生センターの教員に連絡するなどして、解決の方法を探ってください。

4. 対人関係上の援助

(1) 指導教員との関係

留学生にとって、指導教員との関係は日本留学の成否を決定すると言っても過言ではありません。大学院生はもちろんですが、学部生の場合でも、先生と良好な関係が築けるように、早めに、指導教員の研究室へ案内してください。また、学生と指導教員との関係のあり方は、国によってかなり差があるようです。留学生にとって戸惑うことも多いでしょう。チューターは時には指導教員と留学生の連絡調整役になり、留学生をサポートしてほしいと思います。

(2) 他の留学生や日本人学生との関係

留学生は、所属する研究室やゼミ、サークルなどで、他の留学生や日本人学生との間で問題が生じることもあります。先輩・後輩の関係など、留学生によっては戸惑うこともあるでしょう。コミュニケーションの取り方も文化によって違います。

また、宗教や時間的・金銭的な制約によって、飲み会等に参加が難しい留学生もいます。チューターは日常的な接触を通して、留学生のよき理解者となるように努めてください。

(3) 学外での人間関係

また、アパートの隣人や大家、アルバイト先などの人間関係に悩むこともあります。そんなときは何が問題になっているのか、留学生の話をよく聞くことが大切です。そして、まず留学生の立場になって、留学生の気持ちを十分理解するようにしてください。その上で問題の正確な状況をつかみ、客観的な判断ができるようにしてください。

解決が難しい問題は、指導教員や担当教員、留学生センターの教員に相談してください。

VI. チューターとして活動するうえでの留意点

1. 文化の違いを認識し理解する

留学生は、これまで、異なる文化（宗教を含む）・生活習慣の中で生活してきました。皆さんにとっては当然であることも留学生にとっては全く想像外であることもあるでしょう。チューターは、そうした点を十分踏まえたうえで、留学生の言動や行動について判断してほしいと思います。



特に、日本人学生同士、または研究室内で当然のこととして行われていること（**暗黙のルール**になっているようなもの）は、留学生にとって察することが難しいものです。誤解を避けるためには、**明確な説明と話し合い**が必要です。

また、日本に留学したのだから、「郷に入れば郷に従え」と一方的に日本の文化や生活習慣を押し付けるのではなく、文化の違いに**寛容**である必要があります。その上で留学生に日本の文化・生活習慣に関する情報を提供し、理解してもらうようにしてほしいと思います。

2. 留学の目的が達成できることが最も重要な課題であることを認識する

留学生は、具体的な目的（学位取得、特定のテーマについての研究等）をもって、長崎大学に留学しています。留学生にとっては、その目的が達成できることが最も重要なことです。

チューターは、その目的を十分理解し、それが達成できるように援助する必要があります。

3. 留学生の自立を側面から援助するという観点で行動する

チューターは、留学生の自立を側面から援助する、という観点で行動する必要があります。留学生が困っているからといって、請け負いの的に何でも引き受けてしまうのは避けなければなりません。

常に留学生とともに考え行動する姿勢をとってほしいと思います。

4. 留学生の要求・希望に対して曖昧な返事をしないようにする

留学生の要求にチューターとしてどこまで応えることができるのか、できることとできないことを曖昧にせず、常にはっきりさせてください。また、無理な場合はその理由とともにはっきりとその旨を伝えるようにしてください。

はっきり言わなくても、相手が察してくれるだろうという姿勢で望むと、留学生を混乱させたり、お互いの信頼関係を損なったりする恐れもあります。

5. 自分の力量を越えた問題は教員等の援助を受ける

チューターを引き受けたからといって、すべて自分で解決しなければならないということはありません。

困難に直面したときは、問題の性格によって、留学生の指導教員や留学生センターの教員、事務の担当者、他のチューター等に相談し、多くの人の知恵で解決していくという姿勢で対応してください。(Ⅶ. 留学生サポートのネットワーク参照)

Ⅶ． 留学生サポートのネットワーク

チューターとして留学生をサポートしていくうえで疑問や問題が生じた場合、いつも一人で解決しようとせず、指導教員（担当教員）や研究室のメンバーと相談しながら解決を図っていくようにしてください。また、問題の内容によってはそれ以外のところに相談したほうがいい場合もあるでしょう。

学内には以下のような留学生をサポートするためのネットワークがあります。

<留学生センター>

松本 久美子 (TEL 819-2242) kumiko-m@nagasaki-u.ac.jp

高野 泰邦 (TEL 819-2241) 永井 智香子 (TEL 819-2239)

源島 福己 (TEL 819-2238) 多田 美有紀 (TEL 819-2240)

松村 真樹 (TEL 819-2253)

<研究国際部国際交流課>

趙 南 (TEL 819-2123) n-zhao@nagasaki-u.ac.jp

<各学部>

留学生指導主事 (2013 年 4 月現在)

*留学生指導主事

教育学部	古賀雅夫	環境科学部	河本和明
経済学部	青山 繁	水産学部	サト シル グレン ペレス
医学部	篠原一之	熱帯医学研究所	鈴木 基
歯学部	根本孝幸	水産・環境科学総合研究科	竹垣 毅
薬学部	黒田直敬	医歯薬学総合研究科	池田 通
工学研究科	柴田裕一郎		

各学部には留学生指導主事が配置されています。

また、**留学生センター**では、長崎大学に在籍するすべての留学生を対象として、**専任教員全員**が**日本語等**の教育だけでなく**指導相談**にも当たっています。

留学生は来日後、ゼロから人間関係を作っていかなければなりません。学内だけでなく、学外、つまり地域の人たちとどんな交友関係を作っていくことができるかも、留学生活を続けていくうえでとても重要なことです。留学生センターでは、地域の中にも留学生の支援のネットワークを広げ、留学生をよりよくサポートしていくために、地域の留学生支援・交流団体(グループ)と協力関係を築いています。

＊「地域の留学生支援・交流団体」に関しては、『留学生のための長崎生活ガイド(第12版)』(2013.4.1. 長崎大学留学生センター発行)を参考にしてください。

VI. チューターとしての活動を通して得るもの

以上のように、チューターの役割は非常に重要です。また、苦勞も多いと思います。謝金は出ますが、費やす時間や労力に比べれば、高いものではないでしょう。

しかし、自分とは違う文化的背景をもった人たちとの出会いから学ぶものも大きいと思います。これまでとは違った新しい世界が開けるかもしれません。意欲をもって取り組んでほしいと思います。



以下に、留学生とチューター（4組：2008年度・2009年度）の感想文を掲載するとともに、チューターを経験した人たちの活動内容と、それについての感想（チューター活動報告書から）を紹介します。

これからの皆さんの活動の参考になればと思います。

2013 年 2 月

チューターの金(キム)さん

工学研究科 1 年

高 建



長崎大学で勉強するのもすでに 1 年が経ちました。去年の今頃、長崎に来たときと比べてみると、今はある程度この生活に慣れました。長崎に初めて到着した日を思い出します。韓国より南に位置しているから暖かいと思っていましたが、3 月なのにとっても寒くて冬のようなのだっただけを覚えています。来る前に本やインターネットでい

ろいろ調べたりしたのもあまり役に立ちませんでした。

私に今までの外国の経験とは、大学時代にオーストラリアと中国で語学研修を行ってきたのが全部でした。しかし、日本はその国々とはかなり異なる点が多かったです。外国人登録証発給、銀行口座申し込み、インターネット申請などを一人でしようとしたら、多分とても大変だったと思います。しかし、チューターの助けを借りて、最初の大変な手続きなどは難なく済ませました。

チューターの金さんは学校の授業や実験で忙しいにもかかわらず、個人的な時間を作って難しい点や不便な点を全部聞いてくれて、また解決してくれようとする姿を見ながら、最初思っていたチューターが日本人ではなくて少し残念だった気持ちが消えました。同じ韓国人として、先に長崎で生活を 2 年間やった先輩なので、本人が今まで経験した試行錯誤を教えてくれたり、より簡単な方法を見つけてくれたりしました。たとえば、日本人の礼儀や韓国人が間違いやすい日本語、学校のセミナーなどで私の足りない部分を補ってくれようと努力しました。

より幸運だった点は金さんが私の隣の部屋に住んでいて助けが必要な時には、すぐ会うことができた点でした。そして毎日のように会って私の親友になりました。朝起きて一緒に学校に登校して、時間にあると一緒に昼食を食べながら、お互いの研究や悩みについて、話をして、学校が終わってからはお互いの部屋を行き来して話をしながら 1 年間の寂しさを乗り越えることができました。

チューターの活動を通して

工学研究科2年

金 永鎬

寒い冬が過ぎ、暖かい春が来る頃 ゴゴンさんと私は 初めて会いました。ゴさんは日本人ではなく、同じ国の人がチューターになって少し残念に思うかもしれないと思って、私は‘話やすい相手’になろうとおもい、親しく近付いて行くことに力を入れました。私も長崎大学に入学してから1年間、チュー



ターに色々な助けられた経験がありましたから、私が留学したばかりの時に必要だったことを思い出しながら、日本人チューターより一層努力しました。

しかし、最初の手続きなどを終えた後、私の心配が生じました。やはり私は日本人ではないので、お互い会えば楽に韓国語で話をしました。これがむしろゴさんには毒になるかもしれないという気がしました。その時から曜日を決めて週に1,2回会って会話の練習を始めました。最初は韓国人同士が日本語で言うのがぎこちなかったのですが、すぐに慣れました。最初は、知らない日本語が出てくると韓国語で説明しましたが、今は分からない部分が出てきても日本語で聞いて、理解できる程度までになりました。

たまには私の日本人の友達を紹介して、日本人との交流にも尽力しました。ゴさんに出会って、いつのまにか一年が経っており、今はチューターと学生の関係が終わるんですが、今は私にとって彼との出会いは大事な縁だったと思うし、この縁を続けていきたいです。チューター活動のおかげで私の人生の良き仲間に出会うことができました。本当に関係者の皆様に感謝を申し上げたいと思います。

2013 年 2 月

チューターの活動を通して

水産・環境科学総合研究科博士前期課程 2 年

宮崎 里帆

私は、2012 年 4 月に中国浙江省から留学してきた趙鮮鮮さんのチューターをしています。チューターの活動するにあたって私は、彼女が日本で生活する上で困ることがないように、また毎日を楽しく過ごすことができるように手助けすることが仕事だと思い、活動してきました。

日本にはじめて来た時、彼女は日本語が全く話せませんでした。また、英語でもなかなか言いたいことが伝わらず、もどかしい思いをしていたことを思い出します。しかし、幸いにも彼女が中国からの留学生で、漢字で書けば伝わることも多かったので、コミュニケーションをとることが大変だと感じたことはそれほどありませんでした。それどころか、彼女はいつもノートを片手に、私たち日本人とコミュニケーションを取ろうと積極的でした。「好きな食べ物はなんですか」「好きな色は何色ですか」「趣味はなんですか」など、ノートに書いて覚えたことを口に出して覚える、この繰り返しの毎日でした。時には一緒に絵本を読んだこともありました。きっと、慣れない日本で生活するだけで大変だろうに、日本語を勉強する彼女はとても笑顔で、楽しそうだったことがとても印象的です。日々の努力が実を結び、彼女の日本語の成長はとても早かったように思います。そして、今となっては大抵のことは日本語で会話できるようになりました。彼女の一年間の努力を、私は本当に凄いと感じています。

彼女は、1 年間の留学が終了したら、今度は長崎大学で大学院に進学することになっています。大学院進学後はこれまでとは違い、日本語でのコミュニケーションに加え、研究も本格的に行わなければなりません。研究をする上では、自分の研究に対する考えをしっかりと持ち、討論できるようになることが必要です。私は、彼女なら十分できる力を持っていると確信しています。だからこそ、今以上に努力を重ね、2 年後には研究室にとって、いなくてはならない存在として彼女には成長してほしいと願っています。

彼女と過ごせる時間はまだまだあります。これからも、良き仲間として彼女と毎日笑顔で楽しく過ごしたいと思っています。そして何年後、彼女にとって日本への留学が良い思い出となってくれたら、私は本当に嬉しく思います。



チューターの里帆さん

水産学部特別聴講学生

趙 鮮鮮（中国）

もうすぐ日本に来て一年になります。里帆さんに助けてもらって、日本の生活や勉強にだんだん慣れることができました。

日本に来る前に、日本語を勉強しました。日本では早く生活に慣れるために、留学生にはチューターが指導することを聞きました。そのことを聞いて、日本での生

活への不安がありましたが、チューターがいてくれるので安心しました。

中国から飛行機で1時間半後、日本に着きました。その時、頭の中は中国語しかなく、日本語を全然喋れませんでした。もちろん、その日は全く日本語が分かりませんでした。初めて会った人と話すのがとても恥ずかしく、緊張してしまって、何も言えずに不安と焦りを感じたのを今でも覚えています。

長崎駅で里帆さんに会いました。私の名前を書いた紙を持って迎えてくれました。私と里帆さんが初めて会った日は、雨が強く降っていてとても寒い卒業式の日の方でした。その日里帆さんは、とても忙しい日だったのにお昼からずっと待っていてくれたことを後で知りました。その時、駅で会った時以上に感動しました。その後、里帆さんがいろいろな外国人の手続きを順調にしてくれました。ほんとにありがとうございます。

私は交換留学生として、授業があります。中国で日本語を勉強したのに、全然喋れませんでした。初めての授業の日はとても緊張しました。里帆さんはそんな私に気づいて、一緒に教室へ行ってくれました。おかげで緊張がやわらぎました。日本語が下手なので、里帆さんとよく話します。身の回りのものを使って日本語を教えてくれたのがとても分かりやすく、楽しかったです。最初に覚えた色は‘紫’です。里帆さんはとてもいい先輩で、授業中分からない内容を丁寧に説明してくれました。里帆さんのおかげで専門の授業が分かるようになりました。そして日本がもっと好きになりました。今、里帆さんは、私のチューターとしてだけではなく、友達としてもいろいろなことを教えてくれて、本当に感謝しています。

私は新しい目標ができました。その1つは大学院生になることです。これから長崎大学大学院生になって、里帆さんからもっと勉強を教えてもらい、もっと沢山のことを吸収したいと思います。

2010 年 2 月

チューター経験を通じて

生産科学研究科博士前期課程 1 年

檜崎 哲矢

私は2009年4月に韓国から留学してこられた韓修妍さんのチューターをしています。チューターをするのは初めてで、最初は何をすれば良いのか全く分からない状態でした。また、これまでに海外の人と接する機会があまりなかったため、自分にチューターが務まるのかとても不安でした。その中で1年間一緒に過ごしてきて、彼女にとってもそうですが、私にとっても大変貴重な経験になり、お互いに成長することができたと思います。

韓さんを長崎駅に迎えに行き、初めて顔を合わせたのですが、その時はもちろん日本語でしっかり会話ができる訳ではありませんでした。片言の日本語の単語で意思を伝えて、日本語と英語を交えてお互いに理解を深める程度でした。しかし、その後学部の案内や市役所での手続きをしているうちに、韓さんはこちらが話していることの大部分を理解できていると感じました。その中でわからない単語や表現があれば、その場で辞書を出して調べていたり、「今の言葉はどういう意味なの？」と質問をされるので、とても勉強熱心な子だということを感じました。

韓さんも少しずつ日本に慣れて、私もチューター業務に慣れてきたころ、せっかく日本に勉強をしに来ている韓さんのために、私ができることはなんだろうと考える余裕が出てきました。そこで、韓さんは日本語を勉強しに来ているという原点に戻ろうと思い、なるべく普段接する時から日本語の勉強になるように努めました。日本に来たばかりの時期は韓さんがすぐに理解できるように、わからない言葉は英語で言い換えて説明していました。しかし、これでは本当に彼女のためにはならないと考えて、少し説明が長くなったり、理解しにくいかもしれないけれど、なるべく日本語の文章で言い換えることで理解してもらうようにしました。そこからはほとんど日本語のみで会話も不自由しませんし、レポートの内容なども不自然な表現が少なくなりました。次に、長崎に留学して来られたからには長崎の文化を知ってもらおうと思いました。研究目的で県内に車でサンプリングに行く時も一緒に行き、精霊流しなどにも一緒に行くことで、長崎がどのようなところなのかを少しは理解

してもらえたと思っています。

私は韓さんと出会い、チューターをさせていただいたおかげで少しだけグローバルコミュニケーションというものを身近に感じる事が出来ました。そのおかげで、今年度研究に関連して中国に行く機会があったのですが、積極的に現地の学生にも話しかけることができました。この時、チューター経験は確実に自分の中で生きていると感じました。韓さんはとっても明るくまじめな性格です。ある日「授業やレポートも日本語だし、勉強大変でしょう？」と聞くと、笑いながら「大変じゃないよ。勉強好きだし、楽しいから」と答えられたのがすごく印象的でした。あとわずかで私のチューターとしての任期は終了し、韓さんは帰国します。しかし、私はこれ

からも韓さんとは大変良い友達です。韓さんが帰国してからも頻繁に連絡を取り合おうと思いますし、私が韓国に行くことがあれば、現地を案内してもらいたいと思います。



ありがたいチューター

水産学部 特別聴講学生

ハン・スヨン（韓国）

長崎に留学してから 10 ヶ月過ぎて、もう韓国に帰ります。去年4月、日本語だけではなく日本の文化もぜんぜん分からない状態で長崎へ来ることになりました。長崎空港に到着して、初めて会った日本人がチューターの檜崎さんでした。初めに会った時は、日本語で話し合うのが難しくて、なかなか会話はできなかったのですが、チューターと話し合いながら日本語の実力も上がったと思います。自分から積

極的に話しかけない性格である私に先に言葉をかけてくれて、自らの日本語の壁が崩せたと思います。

私のチューターはささいなことまでもきちんと説明してくれて順調に留学生生活を始めることができました。留学生は日本へ来たら市役所での外国人登録や処理する事がたくさんあります。初めは外国登録証の申し込みや携帯電話の契約など、ひとりでは難しいことを手伝ってくれました。時間がたくさんかかっても、黙々と手伝ってくれるチューターに対して本当にありがたいと思うと同時に、すまなかったです。また私だけではなく一緒に来た韓国の友達も助けてくれて、今でも皆がありがたく思っています。

また、研究室の活動や授業、試験など全体的な学校生活でもチューターに助けてもらいました。他の国の言語で講義を聞くことは 漠然たる不安感がありました。しかし講義を終えて研究室へ行って、チューターに分からない部分や筆記した内容を聞くことで講義を理解することができましたし、大学の講義だけではなく、学科の問題など不安だった日本での学生生活もうまく進むようになりました。そして研究室でも適応することができるように、友達も紹介してくれたし、担当教授である鈴木先生とも楽に過ごすことができたと思います。

この一年は私にとって忘れられない幸せな一年でした。
大切な思い出がたくさんできましたし、ここで結んだ縁をこれからもずっと大事にして行きたいと思います。

ここ長崎大学で助けていただいた分、私も韓国に帰って韓国へ留学に来た学生たちの役に立ちたくて、今度韓国学校のチューターに申し込みをしました。

今、私は多くのことを学んで、感じて、経験して韓国に帰ります。
幸せな長崎の留学生生活を作るのを手伝ってくれたチューターの檜崎さんから受けた親切に感謝しています。長崎で受けた温かい心、帰って他の留学生に伝えます。

2009 年 2 月

チューターという貴重な体験

生産科学研究科博士前期課程 1 年

辰野 竜平

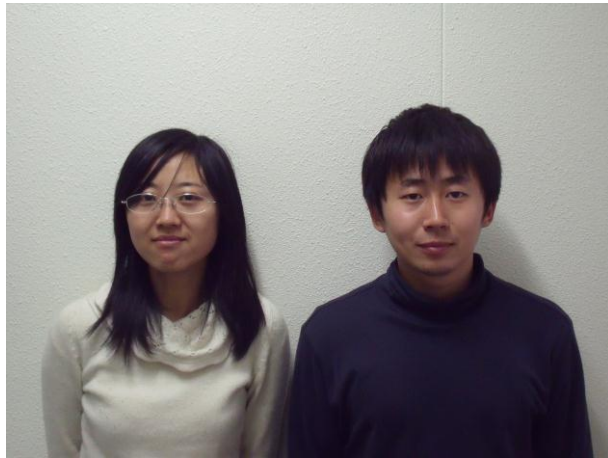
私は2008年4月に中国から留学してこられた王俊杰さんのチューターをしています。チューターという立場につくのは初めてだったので、始めの頃は何をして良いのかよくわかりませんでした。試行錯誤して過ごしてきた1年間、王さんのチューターとして経験してきた事は、これからの生活において貴重な財産になると感じています。

王さんとは4月の下旬に研究室で顔を合わせました。この時まだ日本語が上手く話せなかったため、些細な事を伝えるのにも苦勞をしました。幸い彼女は英語が話せたので、日本語と英語を織り交ぜながら、コミュニケーションをとるように努めました。そのような状態で当初は言葉の意味を教えたり質問に答えたりするだけでしたが、しばらくしてそれだけで十分なのか疑問を持つようになりました。もし、自分が王さんと同じ立場だったらチューターに何をしたいのか、その点について思慮をめぐらせ最終的に“日本の中で彼女が安心できる場所づくりをしていこう”という考えに至りました。そこで私が取り組んだ事は、研究室メンバーとのコミュニケーションの確立でした。研究室に所属している学部生や大学院生の方々と昼食を食べたり、一緒に遊びにいったりと共に過ごす時間を数多く設けました。この取り組みが功を奏したのか彼女はみんなと話していくうちに日本語だけではなく日本の文化、中国との相違点など、様々な知識を身につけられました。今では日本語での彼女との会話で不自由を感じる事はありません。

彼女が日本での生活に慣れてきた頃に、留学目的である研究に関する補助に力を入れ始めました。彼女が中国でやってきた分野と私が所属する研究室の分野は違うため、基礎的な部分を受得するまで実験技術や専門用語などつきっきりで指導しました。また、ゼミでは彼女が中国で行ってきた研究の発表をすることになったので、日本語でまとめたお手伝いをしました。専門用語を日本語に変えたり、日本語で発表練習をしておかしい言葉がないかチェックをしたりする中で、彼女の努力

を目の当たりにして感心させられました。その後、彼女は私の所属する研究室の博士後期課程に入学しました。私がやってきたことが間違っていなかったと証明されたようで非常に嬉しかったのを覚えています。

王さんとはお互い率直に思った事を言い合い、時には意見をぶつける事もありましたが、そのおかげで信頼関係が築けました。私のチューターとしての任期はもうすぐ終わってしまうのですが、これからも良い友達として彼女をサポートしていこうと思っています。



チューターの辰野さん

生産科学研究科博士後期課程1年

王 俊杰(中国)

光陰矢のごとし、私は日本に来て既に1年経ちました。日本の生活や勉強にだんだん慣れてきたのは辰野さんのおかげです。

日本に来た最初に、教授は大学院一年生の辰野さんを私のチューターに指名しました。研究室では隣の席だったで、辰野さんは研究室内で最も私に話しかけてくれた人です。この一年の間に、辰野さんは私のチューターだけではなく、友達に、親友にもなりました。

日本に来たばかりの留学生にとって、日本語で皆と交流するのは一番大変なことです。交換留学生として、日本に来る前に少ししか日本語を勉強していないのに、自由に話すのは困難です。チューターの辰野さんはそのときに手を借してくださいました。彼は私が分かるように、できるだけゆっくりと標準の日本語で話してくれました。それでも分からなかったら、ノートに分かりやすい日本語や英語また図を用いた簡単な方法を使って説明してくれました。

また、日本語がうまく話せないため、いろいろな手続きをする時に不便です。辰野さんはこれらの手続きをするのを手伝ってくれました。例えば、図書館の利用方法、銀行通帳の申し込み、携帯電話の契約、健康検査などです。この間に辰野さんがとてもまじめな人だと心から感じました。私が授業料免除を申請するときにも、辰野さんは私に資料をすべてコピーさせ鉛筆で下書きさせて、それをチェックした後に、今度は本紙に鉛筆で書かせてからボールペンで清書させたのです。そのときにどうしてここまでするのか納得できませんでした。ただの申請用紙で間違ったら書き直せばいいのに、こんなに手間をかけて意味があるのかと思ったのです。その気持ちを辰野さんに読まれたのか「あなたのことだからこそ、普段以上に真剣にチェックしなければいけません。」といわれました。それを聞いた私はとても恥ずかしい思いでした。辰野さんは私のことを自分のことだと思って、自分のことよりも真剣に取り組んでくれたのです。

8月の私の成果発表の時も日本語がうまくない私にとって、日本語で自分の研究内容を書くのは困難でした。辰野さんは毎日これを心配してくれて「どうですか、どこまで進みましたか」と聞いてくれました。完成した文章も一回一回修正してくれて、発表練習でも丁寧に発音ミスなどを指摘してくれました。本当に感動しました。

日本に来たときは、友達があまりいませんでした。辰野さんはよく私と話をします。話す話題は人文、歴史を含んだいろいろな分野で非常に楽しかったです。私が病気になったときに、彼は心配してくれて「今日は少しでもよくなりましたか？病院にいきましたか？」などと聞いてくれます。そんな時は、心が暖かくなりその気持ちは言葉では表現できません。

いよいよチューターの任期が終わってしまいます。辰野さんは私のチューターではなくなりますが、このことに関わらず、辰野さんは「あなたのチューターではなくなっても、友達として、何か困ったことがあったら、遠慮なく言ってください。できるだけ手を貸しますから。」と言ってくれました。私は、感動すると同時に辰野さんに「ありがとうございます。」と言いたいです。

チューターを経験した人たちの活動内容と感想

「チューター活動報告書」より



＊この半年の活動の中心は何でしたか。 「チューター活動報告書」より

＜日本語力（日本文化理解）の向上のための援助＞

- ・ 日本語会話の練習。日本・日本文化・長崎に関する質問。
- ・ 日本文化(日本語)を知ってもらうことに重点を置いて活動した。交流会を開いたり、長崎の観光に行ったり、実家にも何度か一緒に帰省した。
- ・ 日本語が全く話せない状態で日本に来ていたので、できる限り日本語になじんでもらえるように努力した。友達に紹介したり、お茶会につれて行ったりした。
- ・ 日本語でコミュニケーションがとれるようになること、ニュアンスを理解してもらうこと、普段日本人が使わない言葉や間違った表現を指摘すること。
- ・ 留学生は日本語で話す機会を多く持ちたかったようなので、会話を中心としました。
- ・ 日本語1級検定の勉強。合格するだけでなく、実際に日常でも使えるように、検定の問題集だけでなく、日本語の会話や読み書きを通して勉強しました。
- ・ 留学生が研究生という立場だったので、これからのことを考えると日本語がかなり重要だと思い、日本語の指導に力を入れました。
- ・ 日本語会話の相手。授業以外で日本人と話す機会を作ること。友人が作れる環境を与えることにいちばん時間を費やした。
- ・ 正しい日本語の使い方。先生と話す時、アルバイトをするときなどの敬語の使い方。
- ・ 九州の方言に戸惑いを感じていたようだったので、方言についてよく話した。

＜専門分野についての援助＞

- ・ 授業や単位の説明。数学や力学の指導。
- ・ 実験における操作、結果の解析等、実験に関するサポート
- ・ 定期的に指導教員と学習方針についての話し合い（本人を含め）をした。
- ・ レポートのチェック
- ・ 課題やレポートの作成、ゼミの発表の準備
- ・ 授業に関する資料の提供と定期試験前の共同学習
- ・ 試験勉強の指導と履修に関するアドバイス
- ・ 日本語での講義についていって単位が取れるようにすること。（特に専門用語の習得）
- ・ 展覧会等、研究室の活動に参加してもらうためのサポート。授業内容に関する説明
- ・ 1年間の研究成果を発表するための準備
- ・ 具体的な実験方法や結果の評価法などの指導
- ・ 修士論文執筆のための準備、実験室での技術指導
- ・ 臨床研修に対する指導
- ・ 実践授業に向けて授業の進め方や質疑応答の方法を説明し、模擬授業を行った。

- ・ 専門科目の予習・復習
- ・ 大学院受験のための会計学および時事問題の勉強
- ・ 大学院入試対策
- ・ 授業内容の確認と講義で理解できなかったところの説明
- ・ 英語の予習、レポートの書き方、試験対策
- ・ レジューメ作成の方法、インターネットでの情報収集の方法の指導、図書館の有効な利用の仕方の指導
- ・ 後期はレポートや課題が増えたので、常に留学生が困っていないか気にかけてながら、サポートが必要なときはお互いの都合のいい時間に手伝ったり指導したりした。
- ・ 授業のノートの取り方、学校の案内、パソコンルームの使い方
- ・ 日本語で書いた文章（論文）のチェック、校正

＜事務的な事柄についての援助＞

- ・ 漢字が読み書きできないので書類等の作成
- ・ 留学生に送られてくる書類など、日本語文書の翻訳
- ・ 日常生活での事務的な手続きのサポート
- ・ 書類などの提出物の書き方、提出前のチェック
- ・ 役所、学生支援センターなどでの事務手続き
- ・ 書類の記入（市役所・郵便局・アパートの入居手続き、受験関係）

＜生活上の援助＞

- ・ 寮（アパート）入居時の手伝い
- ・ アルバイト探しや免許、電話の手続きなど、日常生活にかかわること
- ・ 長崎の文化、長崎での生活情報の提供
- ・ 日本の生活習慣について
- ・ 日本の生活に慣れるためのアドバイス
- ・ 生活上の悩みやバイトに関する相談
- ・ 日本の日常生活における文化や考え方の説明
- ・ お互いが日常生活で経験したことをできるだけ報告しあうこと

- ・ トラブルがあった時の代わりの対応
- ・ 病気で入院したため、入退院の手続きや、その後の通院の付き添い
- ・ 留学生がもっとも必要としていたことは日常生活での交流だったと思う。よく留学生のアパートに誘ってもらったが、こちらの都合が合わなくて悩んだ。できるだけ時間を作っていっしょに過ごすように努めた。
- ・ ストレスの解消。留学生（特に私費留学生）にとって重要なのは一生懸命頑張ることだけではありません。遊ぶことも大切だと思います。留学生の中には必死にアルバイトをし、勉強したあげく、体をこわしてしまった人が少なくないです。適当な運動や、いろんな活動に参加することを通して、たまったストレスが解消できます。

＊その中で困ったこと、難しかったことは何ですか。

＜文化や習慣に関すること＞

- ・ 宗教と文化の違い
- ・ 相手の国にない習慣を伝えること。
- ・ 礼儀作法を説明するのが難しかった。（その考えがなかなか理解できないようだった。）
- ・ 時間に対する感覚の違い
- ・ 価値観の違いなど、伝えることが難しかった。
- ・ 実験に対する見解の違い、および文化的背景の違いから、説明がうまく伝わらなかったこと。
- ・ 文化や習慣の違い。特に担当留学生は肉とアルコールがまったくだめだったので、何度か食事に誘えないことがあった。しかし、留学生に配慮し、特別メニューを作ってくれる店もあって助かった。
- ・ 観光は日本から一番近い国であるのに文化がとても違い、研究室での生活において、時間を守ることをはじめとする基本的な日本の生活習慣を教えることが難しかった。

＜言葉・コミュニケーションに関すること＞

- ・ 私たちが日常使っている何気ない言葉に対する質問に悩まされることが度々あった。

- 敬語・若者言葉の意味を聞かれること
- 言葉の壁
- 相手が理解できる日本語や英語を使って教えなければならなかったこと。
- 留学生が理解しやすい言葉で説明しなくてはいけないこと。言いたいことが伝わらないことがあったこと。
- 教える時、日本語がよいか、英語がよいか迷う。
- タイ語・英語だけが会話の手段だったので、コミュニケーションが大変だった。辞書とジェスチャーで頑張った。
- 普段使っている日本語を説明する難しさ
- 普段の会話で使う日本語と学会要旨に載せるような日本語の使い分けを指導するのが難しかった。
- その場の状況に即した話し言葉（敬語・方言）の説明。
- 日本語の間違いをどこまで訂正したらいいのか。
- 留学生の英語がなかなか理解できなかったこと
- 話をするとき、身振り・手振り・表情がとても大切で、それらはコミュニケーションの際にとっても有効だということがわかった。
- 自分の頭の中で考えたことを、わかりやすく簡潔にまとめて相手に伝えること
- 同じことを繰り返し伝えること。焦らずにわかってもらうこと。

＜担当留学生との関係に関すること＞

- ・ 留学生の不安、困難を察すること。
- ・ 自分自身も忙しくしていて留学生に対する配慮に欠けていたように思う。心配はしても、実際に言葉をかけたり指導することができなかったのが反省点である。
- ・ 担当留学生が遠慮して困っていることや分からないことを私に言わないこと。
- ・ 相手が必要としている時に、自分の対応が遅れてしまったこと。
- ・ 担当留学生が自分の指導に満足しているかどうか、わからないこと。
- ・ 留学生の遅刻、突然のキャンセルが多くて大変困った。
- ・ 基本的な考え方の違いから、お互いに相手を理解することが難しかったこと
- ・ 時間が合わない。メールや電話をかけても、返信、折り返しの電話が来ない。
- ・ 会うためのスケジュールの調整
- ・ 理解できれば必ず受け入れられるというわけではない。現実をどういう態度で受け入れるかが大事です。

＜勉学・研究の指導に関すること＞

- ・ 研究室の活動内容を理解してもらうこと。
- ・ 自分でもよく説明できない専門用語がありましたが、先生に教えてもらって解決しました。
- ・ 自分が履修したことがない科目についての質問に答えること。また、そのレポート作成の補助。
- ・ 既に1回勉強した知識とはいえ、教える先生が代わると内容は全く違って来るから、一から勉強し直すことも何度かあった。
- ・ 数学用語など、自分に説明が難しい場合は、数学科の院生に頼った。
- ・ 文章の添削は自分の作文力も試されるので、すごく悩んだ。専門用語を英語や日本語を使って説明するのは難しかった。
- ・ いっぱいありましたが、特に担当留学生の成績がなかなか上がらなくて苦労しました。最後の方でやっとその原因がわかって、今はだいぶよくなりました。
- ・ ゼミの活動がめまぐるしいスピードで展開していくので、それを教えるのは難しかった。時々伝えるのを忘れてたり、また伝えたつもりが、うまく伝えられていなかったりと、自分の力不足を感じた。
- ・ 説明の仕方。自分が分かりやすいと思っていても、別の説明の方が分かりやすかったりするので、何通りか説明を考えるようになった。
- ・ 私も日本語があまり上手ではなかったので教える内容の中に私もわからないことがあってちょっと困った。（チューターは留学生）

＜その他＞

- ・ 水道代に関するトラブルで大家さんや水道局の人をまじえて話し合ったが、本人に納得してもらえる説明がなかなかできず、苦勞した。
- ・ 奨学金申請書類作成は自分にとっても初めてのことで、情報収集、仕上げに時間がかかった。
- ・ 日本人の友人を紹介する際に、友人が女の子に偏ってしまい、もっと男の子の友人を紹介すればよかったと思った。（留学生は男性で、チューターは女性）
- ・ 友達を増やせるような紹介ができなかった。
- ・ 最初は日本人がチューターをする方が留学生にとって良いと思った、自分は日本語が下手だから同じ国の人がチューターで安心だったし、講義の復習とかの勉強もしやすかったと言ってくれて、うれしかった。（チューターは留学生）

***チューターの活動を通して得たことは何ですか。**

- ・ 留学生の文化を知ることができた。
- ・ 自分自身の世界観が広がった。
- ・ 中国語、英語などを学ぶことができた。
- ・ 英語で話すことに対して、抵抗がなくなったこと。（間違っても恥ずかしいと思わなくなった。）
- ・ 他の国の人と出会ったことで視野が広がった。また、専門分野に関する他国の状況等がわかり、今後の自分の勉強にも役立つと思う。
- ・ 英語力向上に対するモチベーションの増加。
- ・ 相手の文化を理解することで、違う角度からも物ごとを見ることができるようになった。
- ・ どうしたら自分が伝えたいことを伝えられるか、相手を理解できるかを考え、試行錯誤する力を得ることができた。
- ・ 異文化を持つ人と交流することができたし、留学生から日本での最高の友人だと感謝されて、とてもうれしく、帰国の時は寂しかった。
- ・ 留学生は能力があるが、日本の風習など、実際に体験するのが初めてのことに關しては戸惑っていた。日本人にとってはわかりきったことも丁寧に説明し、相手に納得してもらうことの大切さを学んだ。
- ・ 文化が異なる人の生活感の違いを身をもって知ることができた。留学生の友人が増えた。

- ・ 卒業の前にチューターを行い、友人関係に幅ができたこと。教えながら学べたことは有意義だった。
- ・ 外国人と接する機会というのはこれまでの生活の中であまりなかったし、こういう制度がなかったら、自分から積極的に接するということはなかったと思うが、チューターをして積極的に外国人と接するようになった。
- ・ 他の文化の中で暮らしたり勉強したりすることは本当に大変だということを感じた。
- ・ 外国人にとって住みやすいとはいえない日本について知った。
- ・ 日本の豊かさを感じ、感謝の気持ちが持てるようになりました。
- ・ 留学生を支えながら、自分も成長しました。
- ・ 信頼関係を築くのは時間が必要だと感じた。
- ・ どうやって全く知らない人と信頼関係を築いていくかについて非常に勉強になりました。就職にも役に立つと思います。
- ・ 外国の人と交流するときに、根気よく付き合うということ。理解するためにはより一層（日本人同士よりも）の歩み寄りが必要だということ。
- ・ 国際間で週間の違いがあって、それをお互いに理解した上で信頼を築かなければならないこと。
- ・ 今まで深く知る機会がなかった留学生の日本での生活について知ることができました。文化や物価等の違いにひるむことなくチャレンジをする姿は見習いたいと思いました。

- ・ 留学生の日本語が上達していくのを身近で感じることができた。
- ・ 日本人の学生と話すときよりも、より相手の視点に立って考えて会話する必要がある、という教訓。文化や言語が異なっても、理解しようと勤めれば、その気持ちに通じるという実感。
- ・ 言葉の壁はあるが、決してわかりあえないわけではないと思う。それなりに大変だったが、いい経験だったと思う。
- ・ 他人とコミュニケーションをとることが以前より上手になった気がします。チューターとしての役割を果たすのは難しいことだが、常に努力すれば、きっとコンタクトが取れるし、よい結果につながると思う。
- ・ 異文化を理解するには先入観を捨てて、まずお互いに良く知り合うことが大事であると感じた。
- ・ 留学生に教えるということの大変さを経験したことが自分にとって非常によかった。また逆にいろいろ教えられることも多く、外国の人の見方で日本を見つめることができて新鮮だった。
- ・ まずは向かい合って会話をするのが大切だということがわかった。
- ・ 相手の立場になって考えること。もし私が留学生の立場だったらという考えが少しながら身に付いたと思う。価値観の相違も学べた。
- ・ 人への配慮。自分のことだけ考えていたら、何の交流もできないし、できなくなると思う。日本人でも外国人でも「思いやり」ということがいかに大切なことかということに気づくことができた。
- ・ 日本人だから日本語を上手く話せているとは限らず、自分の使っている日本語を見直すことができました。

- ・ 自分の考え、意見をしっかり持ち、はっきり伝えることの大切さ。
- ・ とてもまじめな人だったので、私も見習おうと思い、様々な点で努力するようになりました。
- ・ 留学生と話すときだけに当てはまることではないが、時間がかかるからといって、相手が言おうとしている事をこちらから言うのではなく、懸命に伝えようとしているのを根気よく聞くことで、誤解も避けられるし、本人の語学力の向上にもつながるのではないかと考えた。
- ・ 様々な悩み事などを互いに話しているうちに、同じ考えを持っていることを知ることができた。
- ・ “外国人”という思いが強かったが、話してみると、みんな同じ人間だと思った。
- ・ 自分とは違う視点で考えることを学んだ。また、長崎、ひいては日本を再認識することとなった。
- ・ 自分とは異なる考え方をする人間と出会い、色々な考え方を受け入れる必要があると思ったこと。
- ・ アルバイトを探すとき、留学生を働かせてくれるところがなかなか見つからず、日本の生活について客観的に見つめることができた。
- ・ 外国での生活に興味が湧きました。
- ・ 留学生の友達が増えた。様々な人と出会えた。
- ・ あまり興味の無かったアジアの国々への関心が高まり、中国語に力を入れようと思ったこと。

- 宗教というものを今まで感じる機会というのが少なかったが、宗教について身近なもの（食べ物等）を通して触れることができ、いろんな違いを発見することができた。
- やればできるという信念が私にも伝わってきました。
- 自国で勉強するのとは違い、様々な苦難があるにもかかわらず、精一杯努力しようとする精神力を見習うべきだと思った。
- 担当留学生の勉強、生活などいろんな面でサポートすることを通して自分がもっと強くなり、頼りがいのある人間になった気がします。
- 風習の違いによる様々な価値観を学べた。また、言葉の壁を越えて相手と共感できたときの喜びも味わうことができた。
- 留学生から学ぶことも多かった。これからも教える立場であっても相手を尊敬し、よい関係を築いていきたいと思う。
- 自分も留学してみようという意欲と興味がわいた。もっとたくさんの人（日本人でも外国人でも）と知り合い、その人の考え方や物の見方に触れたいと思うようになった。



おわりに

留学生センターでは、留学生に対するインタビュー調査やチューターに対するアンケート調査の結果から、チューター制度がよりよく機能していくように、国際交流課と協力しつつ、システムの改善を行ってきました。

ガイドブックは1年毎に改訂し、チューターの皆さんにとって、よりわかりやすく、使いやすいものになるよう心がけています。

今後も『チューター・ガイドブックー制度の概要とチューターの心得ー』の改訂を考えています。内容について、皆さんの意見や提案をお待ちしています。

皆さんのチューターとしての経験が実り多いものとなりますように！



長崎大学
留学生センター
松本久美子

TEL: 819-2242

Kumiko-m@nagasaki-u.ac.jp

〔執筆・編集〕
長崎大学留学生センター
松本久美子

*本書の内容等についての問い合わせは、
松本 (kumiko-m@nagasaki-u.ac.jp) まで

チューター・ガイドブック

－ 制度の概要と、チューターの心得 －
(第16版)

2013年4月 発行
〒852 -8521 長崎市文教町1-14
長崎大学留学生センター
TEL 095-819-2243
